

トップインタビュー



‖ 事業を取り巻く環境と当社の現状について

日本国内では、新型コロナウイルス感染症による影 響は残るものの、経済活動再開による回復の兆しがみ られました。一方、急激な円安による為替相場の変動や 長期化しているロシアによるウクライナ侵攻などに起 因する原材料価格の高騰により、マクロ環境の先行き は依然として不透明な状況が続いています。

当社においても、原油・ナフサをはじめとする原材料 やエネルギー価格の著しい高騰にともなう製品の価格 改定や、新規開発が遅れたことにより、収益性の低下を 余儀なくされました。

その結果、当上半期は連結ベースで売上高が32.765 百万円(前年同期比7.8%増)、営業利益が717百万円 (前年同期比70.7%減)となり、加えてウレタン材料事 業、ライフサイエンス事業において計966百万円の特 別損失を計上するに至りました。9月末には、業績予想

逆境に立ち向かい、中期経営計画 『FELIZ 115』の目標達成に向けて 着実に前進してまいります

事業環境が厳しく変化するなか、中期経営計画 「FELIZ 115」は中間地点に差し掛かりました。 あらためて身を引き締め、将来の成長に向けた 歩みを進めてまいります。

代表取締役社長山路直貢

の修正を発表し株主の皆さまにご心配をおかけいたし ましたこと、大変心苦しく思っております。

原材料・エネルギー価格のほか、輸送コストも上昇し ており、非常に厳しい環境下ではありますが、原材料や 資材の確実な確保と価格転嫁活動に総力を挙げて邁進 し、収益性改善に努めていく所存です。

|| 中期経営計画『FELIZ 115』について

2025年3月期を最終年度とする中期経営計画 [FELIZ 115]は3年目になりました。当計画では、連結 売上高850億円、同営業利益100億円を目標としてい ます。前半の2年間で不採算事業を整理し、利益体質へ の改善を進めました。後半では、情報・電子、環境・エネ ルギー、ライフサイエンスの3分野へさらに経営資源を 集中し、確実な事業拡大をめざします。

直近の課題は、やはり収益力強化です。そのためには、 原材料価格の高騰下においても速やかに価格転嫁でき る仕組みが必要です。特に当社のようにお客さまの数 が多く、少量多品種製品が多い場合、価格改定に時間と 労力を要します。例えば、国産ナフサ価格との自動連動 の仕組みを導入するなどして、営業本部が本来やるべ き開発活動ができるよう転換を図ります。

既存事業については、注力分野と方針を明確化する とともに、主要代理店別の戦略に基づくお客さまへの 効率的なアプローチとニーズの把握に努めたいと考え ています。今後市場の拡大が見込まれる電子材料用の 封止材「エイムフレックス®」については、研究部門に拡 販を専門とする部隊を設置し、開発体制の強化に取り 組みます。

ライフサイエンス事業では、カイコ冬虫夏草の新ブラ ンド「天虫花草®」の販売を開始し、ブランドイメージの認 知を徹底して進めています。「ナトリード®」含有のカイコ ハナサナギタケ冬虫夏草摂取による臨床試験で、ヒトに 対する認知機能改善効果を確認できました。研究成果を もとに機能性表示食品届出のフェーズに移行していき

ます。「FELIZ 115」でめざす2025年度の売上高100億円 に向けたシナリオの具体化を進めてまいります。

∥ 株主の皆さまへ

現在、非常に厳しい事業環境にありますが、「FELIZ 115 の方向性を変えるつもりはありません。幸いにも、 今後拡大が見込まれる分野に展開できる材料はまだあ ります。

また、原材料やエネルギーなどのコスト上昇も背景 にあり、お客さまからの脱石化の要望が高まっていま す。脱石化の動きは今後も加速すると見込まれており、 当社でもサステナブルなバイオ原料などによる製品開 発を進めています。環境自荷の軽減をめざすとともに、 ビジネスの幅を拡大したいと考えています。

喫緊の課題は、あらゆる環境下においても収益を落と さない企業力をつけることです。既存事業のさらなる 強化、さらにその先を見据えた新規事業推進に積極的 に取り組んでまいります。株主の皆さまには、より一層 のご支援を賜りますようお願い申し上げます。





営業利益 (百万円)



経常利益 (百万円)



親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益(百万円)



事業セグメントの概況(第2四半期累計)



事 業 界面活性剤

売上高構成比 29.1%

国内ではIT・電子用途、塗料・色材 用途は低調に推移しましたが、機 械・金属用途は堅調に推移しました。 石鹸・洗剤用途は大幅に伸長しまし た。海外では、ゴム・プラスチック用 途は低調に推移しました。





アメニティ材料

売上高構成比 12.7%

セルロース系高分子材料は国内でエ ネルギー・環境用途が低調に、ショ糖 脂肪酸エステルは国内で食品用途が 堅調、海外で低調に推移し、香粧品用 途は海外で大幅に伸長しました。ビニ ル系高分子材料は国内でゴム・プラ スチック用途が堅調に推移しました。





売上高構成比 12 9%

フロン規制に関連する環境配慮型 の合成潤滑油は大幅に伸長しまし たが、公共丁事に関連する十木用薬 剤は大きく落ち込みました。機能性 ウレタンはIT・電子用途が堅調に推 移しました。





機能材料

売上高構成比 35.2%

光硬化樹脂用材料はIT・電子用途が 国内では低調、海外では大幅に伸長 し、水系ウレタンはIT・電子用途が国 内では低調に推移しました。難燃剤 はゴム・プラスチック用途が国内外 ともに大幅に伸長しました。





電子デバイス

ディスプレイ用途のイオン液体は 低調に推移し、太陽電池用途の導電 性ペーストは大きく落ち込みました。



■売上高 ●営業利益 (百万円) 3,632 3.093 **361** 0 152 22/3月期 23/3月期



サイエンス

医薬品添加物や天然素材からの抽 出物の濃縮化、粉末化による健康 食品等の受託事業は堅調に推移し ました。



■売上高 ●営業利益 (百万円) 242 207 △272 **~** △448 22/3月期 23/3月期

連結財務情報

連結貸借対照表(西万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (西万円)



連結損益計算書(百万円)





ライフサイエンス事業の販売拡大への取り組み

天虫花草

「天虫花草」は、バイオコクーン研究所が開発した「カイコハナサナギタケ冬虫夏草」を使用した健康食品です。一般的に冬虫夏草は、アミノ酸など多種の栄養素が含まれるスーパーフードと言われています。通販サイトでの販売やラジオ、SNSを用いた情報発信、ジェイアール京都伊勢丹をはじめとした百貨店に期間限定店舗を出店するなどの活動を行っています。



「天虫花草」 のHPよりご購入 いただけます



スダチン

機能性表示食品の届出を進めている池田薬草の「Sudachin (スダチン錠)」は、徳島県特産のスダチ果皮から抽出したエキスのサプリメントです。層別解析による内臓脂肪の抑制効果が明らかとなり、搾汁後に大量に出るスダチ果皮の有効利用にも寄与します。臨床試験で得た結果をもとにブランド認知の向上を図り、マーケティング活動の効果を高めて売り上げにつなげます。



「Sudachin」 のHPよりご購入 いただけます



健康経営®への取り組み

従業員の健康を維持・増進することで会社の生産性向上を、ひいては企業価値の向上を目指します。 この取り組みは、担当役員の出席する会議体において結果の報告とそれに基づき策定された計画の承認を得ています。



3年連続選定

当社は健康経営に優れた企業として経済 産業省と東京証券取引所が共同で取り 組む「健康経営銘柄」に3年連続選定され ました。



5年連続最高ランク取得

当社は日本政策投資銀行の「DBJ健康経営(ヘルスマネジメント)格付」において5年連続「従業員の健康配慮への取り組みが特に優れている」と評価されました。

会社概要・株式の状況(2022年9月30日現在)

会社概要	
社名	第一工業製薬株式会社
創業	明治42年4月
設立	大正7年8月
資本金	88億9,500万円
従業員数	587名(連結1,112名)

取締役、監査役			
役 職	氏 名	役 職	氏 名
代表取締役 会長	坂本 隆司	代表取締役 社長	山路 直貴
専務取締役	岡本 修身	常務取締役	河村 一二
取締役	清水 伸二	取締役	青木 素直
取締役(社外取締役)	谷口 勉	取締役(社外取締役)	奥山 喜久夫
取締役(社外取締役)	橋本 克己	取締役(社外取締役)	中野 秀代
常勤監査役	藤岡 敏式	常勤監査役	大西 英明
監査役(社外監査役)	髙橋 利忠	監査役(社外監査役)	中 英也

配当金・配当性向の推移				
一株当たり配当金(円)●配当性向(%)77.9○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○				
70.00 (期末)	35.00 (期末)	35.00 (期末) 27.8	45.00 (期末) 32.7,	40.00 (期末予想)
27.5	35.00 (中間)	35.00	35.00 (中間)	40.00 (中間)
19/3月期 20/3月期 21/3月期 22/3月期 23/3月期				

(注) 株主の皆さまへの利益還元の機会を充実させるため、2020年3月期より中間配当を実施することといたしました。

事業所		
●本店	●名古屋支店	●四日市工場 千歳地区
●本社·研究所	●九州支店	●四日市工場 霞地区
●東京本社		•大潟工場
●大阪支社		●滋賀工場

株主分布状況		
	株式数比率	株主数比率
金融機関	41.03%	0.42%
個人・その他	29.02%	95.17%
外国法人等	10.35%	1.89%
その他法人	6.43%	1.83%
自己名義株式	10.54%	0.02%
金融商品取引業者	2.63%	0.67%

大株主一覧(上位10名)			
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)	
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,093,600	11.44	
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	682,000	7.14	
第一生命保険株式会社	613,400	6.42	
株式会社みずほ銀行	427,000	4.47	
株式会社京都銀行	417,000	4.36	
朝日生命保険相互会社	339,400	3.55	
DKS取引先持株会	336,100	3.52	
第一工業製薬従業員持株会	285,569	2.99	
京都中央信用金庫	220,000	2.30	
農林中央金庫	140,000	1.46	

- (注) 1.当社は自己株式を1,126,123株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 - 2.持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

TOPIC

「滋賀県女性活躍推進企業」に 滋賀工場が認証されました

当社の滋賀工場は、滋賀県女性活躍推進企業認証制度*において、「二つ星企業☆☆」に認証されました。社内に経営トップを委員長とした社員活躍推進委員会を設置し、多様な社員の能力を最大限に引き出し、活躍できる環境を整えています。これからもESGを意識した社員幸福度経営を実践し、企業価値の向上に努めてまいります。



※滋賀県女性活躍推進企業認証制度とは?

滋賀県が、滋賀県内に本社または事業所を置く、女性活躍推進に取り組む企業・団体等を、 三段階(一つ星企業☆、二つ星企業☆☆、三つ星企業☆☆☆)で認証する制度です。



株主メモ

創業年月 明治42年4月(1909年4月)

事業年度 4月1日から3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

配当 期末配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

単元株式数 100株

発行済株式総数 10,684,321株 (2022年9月30日現在)

お取扱窓口 証券会社等に口座をお持ちの場合、住所

変更や買取請求等株主さまの各種お手続きは、原則として口座を開設されている証券会社等経由で行っていただくこと

となりますので、ご利用の証券会社等へ ご連絡をお願いいたします。 証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)、みずほ信託銀行(株)

にてお取次いたします。

お問合せ先 〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4

みずほ信託銀行(株) 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00 ~ 17:00)

未払配当金の みずほ信託銀行(株)

お支払 および(株)みずほ銀行の各本店

および全国各支店

上場取引所 東京証券取引所(証券コード4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5 TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356 https://www.dks-web.co.jp DKSレポート (統合報告書) はこちらから





